

2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月7日
上場取引所 東

上場会社名 SBIインシュアランスグループ株式会社
 コード番号 7326 URL <https://www.sbiig.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役 執行役員会長兼社長 (氏名) 乙部 辰良
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 (氏名) 大和田 徹 TEL 03 (6229) 0881
 四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無: 有
 四半期決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	78,466	11.6	6,427	24.2	1,731	24.9
2023年3月期第3四半期	70,342	7.1	5,176	14.5	1,386	25.6

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 1,671百万円 (ー%) 2023年3月期第3四半期 △4,602百万円 (ー%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第3四半期	69.76	ー
2023年3月期第3四半期	55.85	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第3四半期	203,371	40,265	19.7
2023年3月期	191,036	38,864	20.3

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 40,149百万円 2023年3月期 38,738百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	ー	0.00	ー	10.00	10.00
2024年3月期	ー	0.00	ー		
2024年3月期（予想）				18.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2024年3月期（予想）期末配当金の内訳 普通配当 15円00銭 上場5周年の記念配当 3円00銭

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	経常収益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	103,000	7.2	8,000	26.8	1,370	10.5	55.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 ー社（社名）ー、除外 ー社（社名）ー

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	24,820,530株	2023年3月期	24,820,530株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	112株	2023年3月期	112株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	24,820,418株	2023年3月期3Q	24,820,418株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報)	9

※ 当社Webサイトに決算情報の補足説明資料を掲載しておりますので、ご参照ください。

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

① 当社グループの経営成績

当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は次のとおりとなりました。

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同四半期 増減率 (%)
経常収益	70,342	78,466	11.6
経常利益	5,176	6,427	24.2
親会社株主に帰属する四半 期純利益	1,386	1,731	24.9

経常収益は、すべての事業における保有契約件数が堅調に増加したことが主な要因となり、前年同期に比べ8,124百万円増加し、78,466百万円(前年同期比11.6%増加)となりました。

経常利益については、保険金支払いが増加したものの、収入保険料の増収が寄与し、前年同期に比べ1,250百万円増加し6,427百万円(同24.2%増加)となりました。また、生命保険事業における団体信用生命保険の取扱いの順調な増加により、経常利益から控除する契約者配当準備金繰入額が前年同期に比べ1,056百万円増加(同34.5%増加)したものの、親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ345百万円増加し1,731百万円(同24.9%増加)となりました。

なお、参考情報として、生命保険事業における特別勘定(※)に係る収益を除いた経常収益について、下記に記載しております。

(※) 変額保険や変額個人年金保険は運用実績を直接契約者に還元するため、契約者に帰属する特別勘定として資産・負債及び損益を区分経理します。特別勘定に係る収益と費用は、それぞれ同額を計上するため利益に影響を与えないものの、損益計算書の経常収益及び経常費用に含めて表示します。

<参考情報>

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	対前年同四半期 増減率 (%)
特別勘定に係る収益を除いた 経常収益	68,552	75,598	10.3

② セグメントごとの経営成績

当第3四半期連結累計期間におけるセグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

なお、生命保険事業における団体信用生命保険の取扱いの順調な増加により、経常利益から控除する契約者配当準備金繰入額の金額的重要性が増していることから、報告セグメント利益のより実態に即した評価・分析を行うため、当第3四半期連結累計期間より、セグメント利益を「経常利益」から「親会社株主に帰属する四半期純利益」に変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント利益については、変更後のセグメント利益(親会社株主に帰属する四半期純利益)を記載しております。

(単位：百万円)

	経常収益			セグメント利益 (親会社株主に帰属する四半期純利益)		
	第3四半期連結累計期間		増減率 (%)	第3四半期連結累計期間		増減率 (%)
	2023年3月期	2024年3月期		2023年3月期	2024年3月期	
損害保険事業	25,451	27,134	6.6	1,665	1,573	△5.6
生命保険事業	22,159	27,955	26.2	274	596	117.2
少額短期保険事業	22,876	23,533	2.9	△67	1	—
報告セグメント計	70,488	78,623	11.5	1,872	2,170	15.9
セグメント間消去又は調整	△146	△156	—	△485	△439	—
四半期連結損益計算書計上額	70,342	78,466	11.6	1,386	1,731	24.9

(注) セグメント利益の「セグメント間消去又は調整」は、当社の一般管理費等による損益であります。

(損害保険事業)

三井住友カード株式会社のデータ分析支援サービス「Custella(カステラ)」を用いて、AIの機械学習を取り入れた高精度なターゲティングによる自動車保険やがん保険の募集を開始したほか、全日本空輸株式会社のANAマイレージクラブ会員向けの「ANAの保険」において、がん保険の引受を開始するなど、パートナー企業とのアライアンスを通じた顧客基盤の拡大に取り組みました。また、株式会社SBI新生銀行が団体契約者となり、同社の預金口座をお持ちのお客様を対象に、一般に比べ割安な保険料でご加入いただくことが可能となる団体保険の「SBI新生銀行がおすすめする実額補償がん保険」を募集するなど、SBIグループのシナジーを活用した顧客基盤の拡大にも取り組みました。こうした取り組みの結果、2023年12月末の保有契約件数は1,248千件(前年度末比4.1%増加)となりました。

経常収益は、保有契約件数が堅調に増加したことなどにより、前年同期比6.6%増加の27,134百万円となりました。一方、セグメント利益は、主に保険金支払いの増加を要因として、前年同期比5.6%減少の1,573百万円となりました。

(生命保険事業)

住宅ローン専門金融機関のSBIアルヒ株式会社と株式会社SBI新生銀行が共同開発した変動金利型住宅ローン「ARUHI住宅ローン(MG保証)」に対して、就業不能保障特約付き団体信用生命保険の提供を開始したほか、株式会社SBI新生銀行の住宅ローン利用者向けに団体信用介護保障保険を2024年3月から提供する予定となるなど、SBIグループのシナジーを活用した販路の開拓を推進しました。また、コールセンターにおいて、生成系AI等の最新テクノロジーを活用することにより、お客様とのスムーズなやり取りを実現しつつ、オペレーターの教育期間の短縮を図るなど、DX推進によるお客様の更なる利便性の向上と業務の効率化に取り組みました。こうした取り組みの結果、2023年12月末の保有契約件数(団体信用生命保険の被保険者数を含む)は462千件(前年度末16.3%増加)となりました。

経常収益は、保有契約件数が順調に増加したことなどにより、前年同期比26.2%増加の27,955百万円となりました。セグメント利益は、収入保険料の増収等が寄与し、前年同期比117.2%増加の596百万円となりました。

(少額短期保険事業)

SBIプリズム少額短期保険株式会社は、2023年4月より、飼い主様にもしものことがあった場合にペットが継続して飼育されるようペットの譲り渡し費用(飼育費用)を補償する飼育費用補償特約を付帯したペット生活総合補償保険「プリズムペット」の販売を開始しました。また、SBIいきいき少額短期保険株式会社は、DataRobot, Inc. が提供するAIプラットフォームの機械学習機能を保険引受査定業務に活用することにより、引受査定における工数の削減や精度向上を実現するなど、DXの推進によるお客様の更なる利便性の向上と業務の効率化に取り組みました。加えて、SBI日本少額短期保険株式会社は、自社の保険契約管理システムと賃貸住宅の家賃債務保証会社が提供する基幹システムとの連携先拡大に努めるなど、お客様の利便性向上と不動産管理会社の業務効率化に取り組みました。こうした取り組みの結果、2023年12月末の保有契約件数は1,019千件(前年度末比2.0%増加)となりました。

経常収益は、保有契約件数が堅調に増加したことなどにより、前年同期比2.9%増加の23,533百万円となりました。セグメント利益は、この増収効果などにより、1百万円(前年同期は△67百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、203,371百万円（前年度末比12,334百万円増加）となりました。主な増加要因は、有価証券が前年度末比18,312百万円増加したことであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は、163,105百万円（同10,933百万円増加）となりました。主な増加要因は、当第3四半期連結累計期間に行った現金担保付有価証券貸借取引により、債券貸借取引受入担保金9,287百万円が四半期連結貸借対照表に計上（四半期連結貸借対照表のその他負債に含まれています）されたことであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は、剰余金の配当により248百万円減少し、その有価証券評価差額金が72百万円減少しましたが、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により1,731百万円増加したことなどにより、40,265百万円（同1,401百万円増加）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの2024年3月期通期の連結経営成績は概ね当初予想どおりと見込んでおり、2023年5月11日公表の2023年3月期決算短信に記載いたしました2024年3月期の連結業績予想に変更はありません。

なお、2024年1月29日に公表いたしました「配当予想の修正（記念配当実施）に関するお知らせ」のとおり、期末配当予想につきましては、普通配当15円に上場5周年の記念配当3円を加えた1株当たり18円に修正しております。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
資産の部		
現金及び預貯金	33,106	29,913
買入金銭債権	995	761
金銭の信託	610	340
有価証券	124,955	143,268
貸付金	186	154
有形固定資産	858	774
建物	421	411
リース資産	1	1
その他の有形固定資産	435	361
無形固定資産	8,284	7,700
ソフトウェア	4,474	4,097
のれん	3,131	2,979
その他の無形固定資産	678	623
代理店貸	116	73
再保険貸	6,993	7,286
その他資産	13,781	12,065
繰延税金資産	449	331
支払承諾見返	700	700
貸倒引当金	△1	△1
資産の部合計	191,036	203,371
負債の部		
保険契約準備金	136,929	139,012
支払備金	21,868	22,295
責任準備金	110,987	112,021
契約者配当準備金	4,073	4,695
代理店借	467	305
再保険借	5,561	6,739
その他負債	7,317	15,068
退職給付に係る負債	21	17
価格変動準備金	967	1,062
繰延税金負債	207	198
支払承諾	700	700
負債の部合計	152,172	163,105
純資産の部		
株主資本		
資本金	8,375	8,375
資本剰余金	32,061	32,061
利益剰余金	4,798	6,281
自己株式	△0	△0
株主資本合計	45,234	46,717
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△6,495	△6,568
その他の包括利益累計額合計	△6,495	△6,568
新株予約権	21	—
非支配株主持分	103	116
純資産の部合計	38,864	40,265
負債及び純資産の部合計	191,036	203,371

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
経常収益	70,342	78,466
損害保険事業	25,354	27,031
保険引受収益	24,955	26,375
正味収入保険料	24,941	26,358
積立保険料等運用益	13	16
資産運用収益	372	625
その他経常収益	26	30
生命保険事業	22,148	27,944
保険料等収入	17,952	23,430
保険料	13,570	17,059
再保険収入	4,381	6,371
資産運用収益	3,069	4,504
利息及び配当金等収入	1,919	1,221
有価証券売却益	891	411
有価証券償還益	1	—
為替差益	252	—
その他運用収益	4	3
特別勘定資産運用益	—	2,867
その他経常収益	1,126	8
少額短期保険事業	22,839	23,490
保険料等収入	22,623	23,254
資産運用収益	0	0
その他経常収益	215	236
経常費用	65,165	72,038
損害保険事業	23,237	25,263
保険引受費用	15,920	17,302
正味支払保険金	14,893	16,814
損害調査費	3,041	3,051
諸手数料及び集金費	△2,924	△2,978
支払備金繰入額	892	199
責任準備金繰入額	18	214
その他保険引受費用	0	0
資産運用費用	250	500
営業費及び一般管理費	7,061	7,455
その他経常費用	4	6

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
生命保険事業	18,672	22,913
保険金等支払金	12,760	17,352
保険金	3,278	4,762
年金	434	607
給付金	1,146	949
解約返戻金	1,933	2,692
その他返戻金	1,048	945
再保険料	4,918	7,395
責任準備金等繰入額	—	182
支払備金繰入額	—	54
責任準備金繰入額	—	128
資産運用費用	1,827	843
支払利息	1	2
有価証券売却損	55	0
有価証券償還損	4	—
金融派生商品費用	460	607
為替差損	—	65
貸倒引当金繰入額	0	0
その他運用費用	255	167
特別勘定資産運用損	1,048	—
事業費	3,620	3,966
その他経常費用	463	568
少額短期保険事業	22,765	23,411
保険金等支払金	14,491	14,740
責任準備金等繰入額	415	868
事業費	7,815	7,774
その他経常費用	43	28
その他	489	449
経常利益	5,176	6,427
特別利益	—	40
負ののれん発生益	—	18
新株予約権戻入益	—	21
特別損失	111	96
固定資産処分損	14	2
価格変動準備金繰入額	97	94
契約者配当準備金繰入額	3,064	4,120
税金等調整前四半期純利益	2,000	2,250
法人税及び住民税等	537	407
法人税等調整額	65	100
法人税等合計	602	508
四半期純利益	1,398	1,742
非支配株主に帰属する四半期純利益	11	11
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,386	1,731

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	1,398	1,742
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6,000	△71
その他の包括利益合計	△6,000	△71
四半期包括利益	△4,602	1,671
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△4,608	1,658
非支配株主に係る四半期包括利益	6	12

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	損害保険 事業	生命保険 事業	少額短期 保険事業	計		
経常収益(注) 1						
外部顧客への経常収益	25,354	22,148	22,839	70,342	—	70,342
セグメント間の内部経 常収益又は振替高	97	11	37	146	△146	—
計	25,451	22,159	22,876	70,488	△146	70,342
セグメント利益又は損失 (△) (注) 3	1,665	274	△67	1,872	△485	1,386

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. セグメント利益又は損失の調整額△485百万円は、当社の一般管理費等による損益であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの経常収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	損害保険 事業	生命保険 事業	少額短期 保険事業	計		
経常収益(注) 1						
外部顧客への経常収益	27,031	27,944	23,490	78,466	—	78,466
セグメント間の内部経 常収益又は振替高	102	11	42	156	△156	—
計	27,134	27,955	23,533	78,623	△156	78,466
セグメント利益(注) 3	1,573	596	1	2,170	△439	1,731

(注) 1. 一般企業の売上高に代えて、経常収益を記載しております。

2. セグメント利益の調整額△439百万円は、当社の一般管理費等による損益であります。

3. セグメント利益は四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

生命保険事業における団体信用生命保険の取扱いの順調な増加により、経常利益から控除する契約者配当準備金繰入額の金額的重要性が増していることから、報告セグメント利益のより実態に即した評価・分析を行うため、当第3四半期連結累計期間より、セグメント利益を「経常利益」から「親会社株主に帰属する四半期純利益」に変更しております。これに伴い、前第3四半期連結累計期間のセグメント利益については、変更後のセグメント利益を記載しております。